

令和4年度

「水道ビジョンまつやま2019（水道事業経営戦略）」

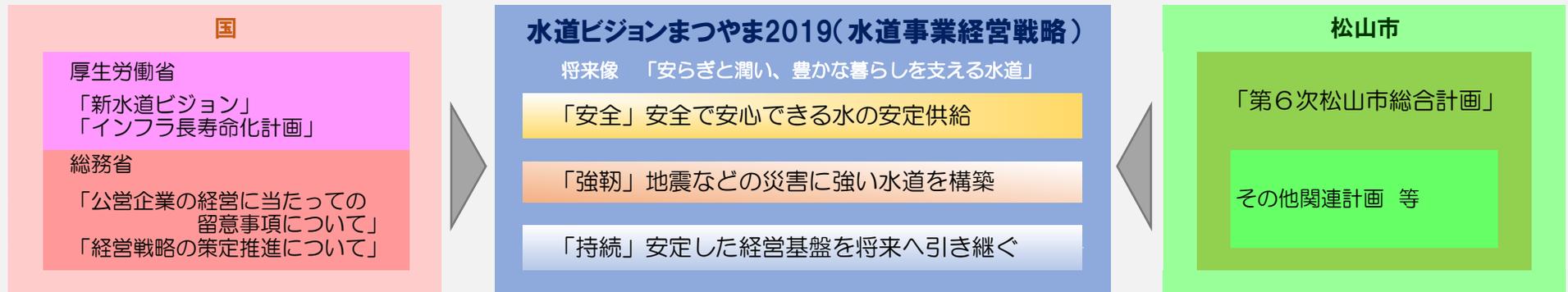
の進捗状況について（管理指標実績値の公表）



松山市公営企業局

「水道ビジョンまつやま2019（水道事業経営戦略）」とは

- ・ 計画期間：令和元年度～令和10年度
- ・ 21世紀半ばにおける水道の将来像を描き、それを実現するための目標と施策を示した「水道ビジョンまつやま2009」の取り組みを継承しつつ、さらなるレベルアップを図るための新たな10か年プランを、厚生労働省が示した「新水道ビジョン」と総務省が策定を求める「経営戦略」を一体化し、松山市の上位計画である第6次松山市総合計画及びその他関連計画を反映したものとして策定しました。



管理指標とは

- ・ 「水道ビジョンまつやま2019」の3つの柱「安全」「強靱」「持続」の方針や取り組みについて、その進捗状況を把握するための指標です。23の管理指標ごとに中間目標、最終目標を設定し、計画的な目標達成を目指しています。
- (1) 「安全」良質な水道水の安定供給の維持に必要な老朽化対策などを進めるための目標値・・・6項目
- (2) 「強靱」水道施設の耐震化など災害に強い水道の構築を進めるための目標値・・・5項目
- (3) 「持続」安定した経営基盤を将来へ引き継ぐために事業の収益性や財務の健全性・安定性などの観点から確保すべき目標値・・・12項目

管理指標実績値の公表について

- ・ 管理指標実績値を毎年度公表することで、計画に掲げる事業の進捗状況を継続してお知らせします。

中間報告の公表について

- ・ 中間年である令和5年度までの前期5年間の達成度を検証、評価した上で中間報告として公表し、最終目標の達成を目指します。



「水道ビジョンまつやま2019」管理指標に基づく進捗状況一覧



目標1 「安全」 安全で安心できる水の安定供給に努めます

管理指標の項目	単位	H29 (2017) 実績値	H30 (2018)	計 画 期 間												望ましい 方向	水道事業 ガイドライン
				R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R5 中間目標値	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R10 最終目標値		
ア ビニル管の残存率	%	15.3	14.6	13.9	13.2	12.4	11.6		12.0 以下						8.1 以下	↓	独自指標
イ 管路の更新率	%	1.04	0.87	0.87	1.07	1.11	1.08		1.10 以上						1.10 以上	↑	B 5 0 4
ウ 有収率	%	95.4	95.3	95.3	95.1	95.6	95.9		96.0 以上						96.0 以上	↑	B 1 1 2
エ 水質基準不適合率	%	0	0	0	0	0	0		0						0	↓	独自指標
オ 取水量 1 m 当たりの水源保全投資額	円/m	0.68	0.59	0.55	0.57	0.41	0.49		0.70 以上						0.72 以上	↑	B 1 0 2
カ 水道施設侵入防止対策実施率	%	9.1	9.1	36.4	45.5	45.5	100		50.0 以上						100	↑	独自指標

目標2 「強靱」 地震などの災害に強い水道を構築します

管理指標の項目	単位	H29 (2017) 実績値	H30 (2018)	計 画 期 間												望ましい 方向	水道事業 ガイドライン
				R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R5 中間目標値	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R10 最終目標値		
ア 基幹管路の耐震適合率	%	34.4	36.3	36.7	36.7	39.6	41.5		41.0 以上						48.0 以上	↑	B 6 0 6 - 2
イ 配水池の耐震化率	%	76.0	79.5	83.4	83.4	94.7	94.7		100						100	↑	B 6 0 4
ウ 重要施設への給水ルート（配水支管）の耐震化状況	か所	17	20	23	27	30	33		32 以上						38 以上	↑	独自指標
エ 応急給水栓整備率	%	13.5	25.7	39.2	52.7	63.5	77.0		60.0 以上						100	↑	独自指標
オ 災害対応訓練実施回数	回/年	7	20	25	5	11	24		11 以上						15 以上	↑	B 2 1 0

目標3 「持続」 安定した経営基盤を将来へ引き継ぎます

管理指標の項目	単位	H29 (2017) 実績値	H30 (2018)	計 画 期 間												望ましい 方向	水道事業 ガイドライン
				R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R5 中間目標値	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R10 最終目標値		
ア 経常収支比率	%	126.6	125.3	123.7	124.9	125.1	117.7		115.0 以上						110.0 以上	↑	C 1 0 2
イ 料金回収率	%	123.7	121.8	120.9	122.0	122.6	114.7		115.0 以上						105.0 以上	↑	C 1 1 3
ウ 料金収納率	%	98.4	98.4	98.5	98.6	98.6	98.6		98.5 以上						98.5 以上	↑	C 1 2 6
エ 自己資本構成比率	%	87.7	87.4	86.6	85.9	85.4	85.1		82.0 以上						79.0 以上	↑	C 1 1 9
オ 固定比率	%	98.0	99.6	100.2	102.1	102.7	103.2		115.0 以下						120.0 以下	↓	C 1 2 0
カ 流動比率	%	840.5	548.8	450.0	489.9	546.2	710.7		400.0 以上						300.0 以上	↑	C 1 1 8
キ 給水収益に対する企業債利息の割合	%	3.0	2.7	2.4	2.2	2.1	2.1		3.0 以下						3.5 以下	↓	C 1 0 9
ク 給水収益に対する企業債残高の割合	%	132.2	131.2	140.4	161.6	178.0	194.4		210.0 以下						280.0 以下	↓	C 1 1 2
ケ 有形固定資産減価償却率	%	50.0	50.7	51.1	52.0	52.7	51.8		53.0 以下						55.0 以下	↓	経営比較分析表
コ 内部研修時間	時間/人	11.2	11.5	11.6	9.6	9.0	10.8		12.0 以上						12.0 以上	↑	C 2 0 3
サ 水道事業の満足度（アンケート調査）	%	-	56.8	-	-	61.4	-		60.0 以上						65.5 以上	↑	独自指標
シ 給水量 1 m 当たりCO ₂ 排出量	g・CO ₂ /m	189	184	184	151	207	184		180 以下						146 以下	↓	B 3 0 3

*水道事業ガイドラインは、水道事業の多岐にわたる業務を一定の算式で求めた119の業務指標により、事業者による評価を促し、サービス水準の向上を図ることを目的として、日本水道協会が平成17年1月に制定したものです。



目標1 「安全」安全で安心できる水の安定供給に努めます

ア ビニル管の残存率



指標の説明	ビニル管を更新することで災害時に予測される管路事故の被害の軽減につながることから管路の「健全性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	12.0%以下	R10最終目標値	8.1%以下
算定式	(ビニル管の残存延長/管路延長) × 100 (%)			
ガイドライン	独自指標	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい

イ 管路の更新率



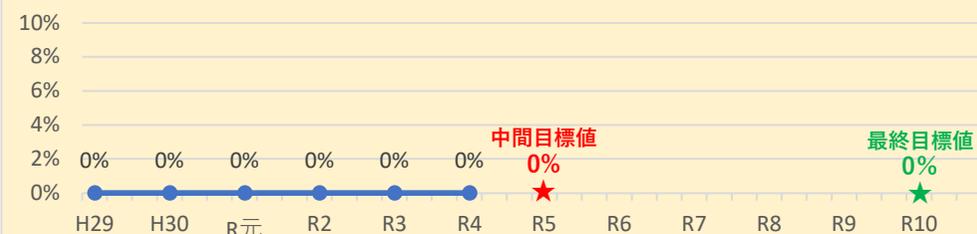
指標の説明	安定給水に向けての「信頼性」を確保するための管路更新の執行度合いを表す			
指標の目標値	R5中間目標値	1.10%以上	R10最終目標値	1.10%以上
算定式	(更新された管路延長/管路延長) × 100 (%)			
ガイドライン	B504	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

ウ 有収率



指標の説明	水道施設から供給される水量が、「どの程度収益につながっているか」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	96.0%以上	R10最終目標値	96.0%以上
算定式	年間有収水量/年間給水量 × 100 (%)			
ガイドライン	B112	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

エ 水質基準不適合率



指標の説明	安全で良質な水を供給するうえでの「安全性、信頼性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	0%	R10最終目標値	0%
算定式	(水質基準不適合回数/全検査回数) × 100 (%)			
ガイドライン	独自指標	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい

オ 取水量1m³当たりの水源保全投資額



指標の説明	水道事業者の「水質保全への取り組み状況」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	0.70円/m ³ 以上	R10最終目標値	0.72円/m ³ 以上
算定式	水源保全に投じた費用／年間取水量 (円/m ³)			
ガイドライン	B102	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

カ 水道施設侵入防止対策実施率



指標の説明	主要な配水池の警備対策の実施割合を示し、配水池を經由して家庭まで水を送るうえでの「安全性、信頼性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	50.0%以上	R10最終目標値	100%
算定式	監視カメラ等の設置済施設数／主要な配水池の施設数×100 (%)			
ガイドライン	独自指標	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

目標2「強靱」地震などの災害に強い水道を構築します



ア 基幹管路の耐震適合率



指標の説明	地震災害に対する基幹管路の「安全性、信頼性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	41.0%以上	R10最終目標値	48.0%以上
算定式	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長／基幹管路延長) × 100 (%)			
ガイドライン	B606-2	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

イ 配水池の耐震化率



指標の説明	地震災害に対する配水池の「安全性、信頼性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	100%	R10最終目標値	100%
算定式	(耐震対策の施された配水池有効容量／配水池有効容量) × 100 (%)			
ガイドライン	B604	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

ウ 重要施設への給水ルート(配水支管)の耐震化状況



指標の説明	救急病院及び救護所38か所のうち、給水ルートの耐震化が完了したか所数を示すもので、地震災害に対する配水支管の「安全性、信頼性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	32か所以上	R10最終目標値	38か所以上
算定式	重要施設への配水支管の耐震化が完了した数（か所）			
ガイドライン	独自指標	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

エ 応急給水栓整備率



指標の説明	災害時に広範囲で断水が発生した場合でも、避難所等で生活用水が確保できる「信頼性」を高める度合いを表す			
指標の目標値	R5中間目標値	60.0%以上	R10最終目標値	100%
算定式	(応急給水栓を整備した学校数／設置対象の応急給水栓計画校) × 100 (%)			
ガイドライン	独自指標	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

オ 災害対応訓練実施回数



指標の説明	自然災害に対する「危機対応性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	11回/年以上	R10最終目標値	15回/年以上
算定式	年間の災害対策訓練実施回数（回/年）			
ガイドライン	B210	指標の望ましい方向	↑ 高い方がよい	

目標3「持続」安定した経営基盤を将来へ引き継ぎます



ア 経常収支比率



指標の説明	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示し、水道事業の「収益性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	115.0%以上	R10最終目標値	110.0%以上
算定式	[(営業収益+営業外収益) / (営業費用+営業外費用)] × 100 (%)			
ガイドライン	C102	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

イ 料金回収率



指標の説明	給水原価に対する供給単価の割合を示し、水道事業の経営状況の「健全性」を示す			
指標の目標値	R5中間目標値	115.0%以上	R10最終目標値	105.0%以上
算定式	(供給単価 / 給水原価) × 100 (%)			
ガイドライン	C113	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

ウ 料金収納率



指標の説明	水道料金調定額に対する収入額の割合を示し、水道事業の経営状況の「健全性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	98.5%以上	R10最終目標値	98.5%以上
算定式	(料金納入額 / 調定額) × 100 (%) * 調定額は納期未到来分を除く			
ガイドライン	C126	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

エ 自己資本構成比率



指標の説明	総資本（負債及び資本）に対する自己資本の割合を示し、財務の「健全性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	82.0%以上	R10最終目標値	79.0%以上
算定式	[(資本金+剰余金+評価差額など+繰延収益) / 負債・資本合計] × 100 (%)			
ガイドライン	C119	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

オ 固定比率



指標の説明	自己資本に対する固定資産の割合を示し、財務の「安定性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	115.0%以下	R10最終目標値	120.0%以下
算定式	[固定資産 / (資本金 + 剰余金 + 評価差額など + 繰延収益)] × 100 (%)			
ガイドライン	C120	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい

カ 流動比率



指標の説明	流動負債に対する流動資産の割合を示し、事業の「財務安全性」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	400.0%以上	R10最終目標値	300.0%以上
算定式	(流動資産 / 流動負債) × 100 (%)			
ガイドライン	C118	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

キ 給水収益に対する企業債利息の割合



指標の説明	水道事業の「効率性」及び「財務安全性」を示す			
指標の目標値	R5中間目標値	3.0%以下	R10最終目標値	3.5%以下
算定式	(企業債利息 / 給水収益) × 100 (%)			
ガイドライン	C109	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい

ク 給水収益に対する企業債残高の割合



指標の説明	企業債残高が「経営に及ぼす影響」を示す			
指標の目標値	R5中間目標値	210.0%以下	R10最終目標値	280.0%以下
算定式	(企業債残高 / 給水収益) × 100 (%)			
ガイドライン	C112	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい

ケ 有形固定資産減価償却率



指標の説明	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示し、「資産の老朽度合い」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	53.0%以下	R10最終目標値	55.0%以下
算定式	$(\text{有形固定資産減価償却累計額} / \text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}) \times 100 (\%)$			
ガイドライン	経営比較分析表	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい

サ 水道事業の満足度(アンケート調査)



指標の説明	本市の取り組みに対するお客さまの「満足度」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	60.0%以上	R10最終目標値	65.5%以上
算定式	$\text{アンケートで満足と回答があった人数} / \text{アンケート回答人数} \times 100 (\%)$			
ガイドライン	独自指標	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

コ 内部研修時間



指標の説明	職員一人当たりの内部研修受講時間を示し、「技術継承」及び「技術向上」への取組状況を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	12.0時間/全職員数以上	R10最終目標値	12.0時間/全職員数以上
算定式	$[(\text{職員が内部研修を受けた時間} \times \text{受講人数}) / \text{全職員数}] (\text{時間/人})$			
ガイドライン	C203	指標の望ましい方向	↑	高い方がよい

シ 給水量1m³当たりCO₂排出量



指標の説明	年間給水量に対するCO₂排出量の割合を示し、「環境保全への取り組み度合い」を表す			
指標の目標値	R5中間目標値	180 g・CO₂/m³以下	R10最終目標値	146 g・CO₂/m³以下
算定式	$\text{CO}_2\text{排出量} / \text{年間給水量} \times 10^6 (\text{g} \cdot \text{CO}_2/\text{m}^3)$			
ガイドライン	B303	指標の望ましい方向	↓	低い方がよい